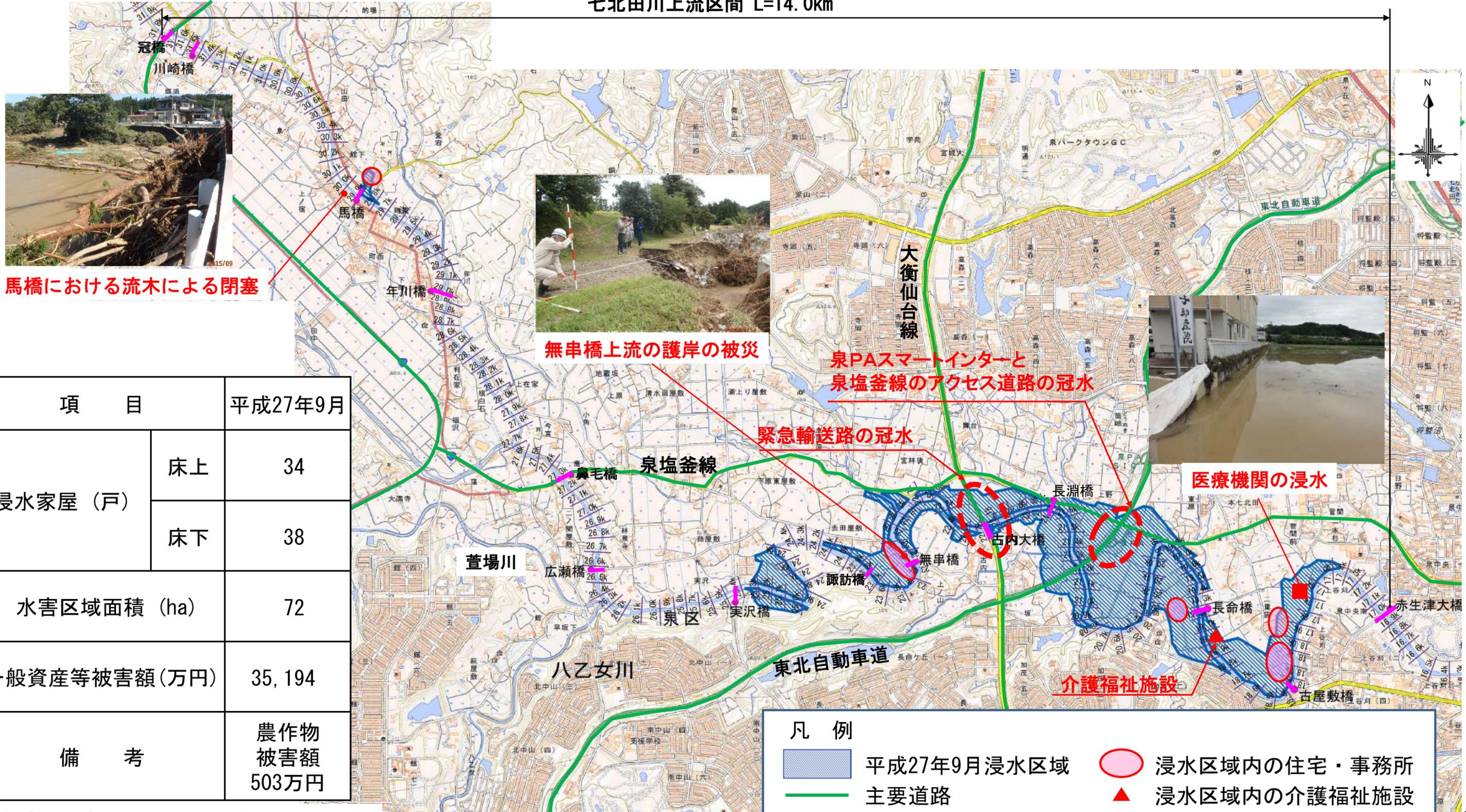


(1) 治水に関する現状と課題

●七北田川上流区間（赤生津大橋より上流）は，平成27年9月に洪水被害が発生

七北田川上流区間 L=14.0km



馬橋における流木による閉塞

無串橋上流の護岸の被災

泉PAスマートインターと泉塩釜線のアクセス道路の冠水

緊急輸送路の冠水

医療機関の浸水

介護福祉施設

項目		平成27年9月
浸水家屋（戸）	床上	34
	床下	38
水害区域面積（ha）		72
一般資産等被害額（万円）		35,194
備考		農作物被害額 503万円

凡例

- 平成27年9月浸水区域
- 主要道路
- 橋梁
- 浸水区域内の住宅・事務所
- 浸水区域内の介護福祉施設
- 浸水区域内の医療機関

※被害は水害統計より仙台市泉区分を計上

● 七北田川上流区間の浸水被害



家屋への浸水



越流



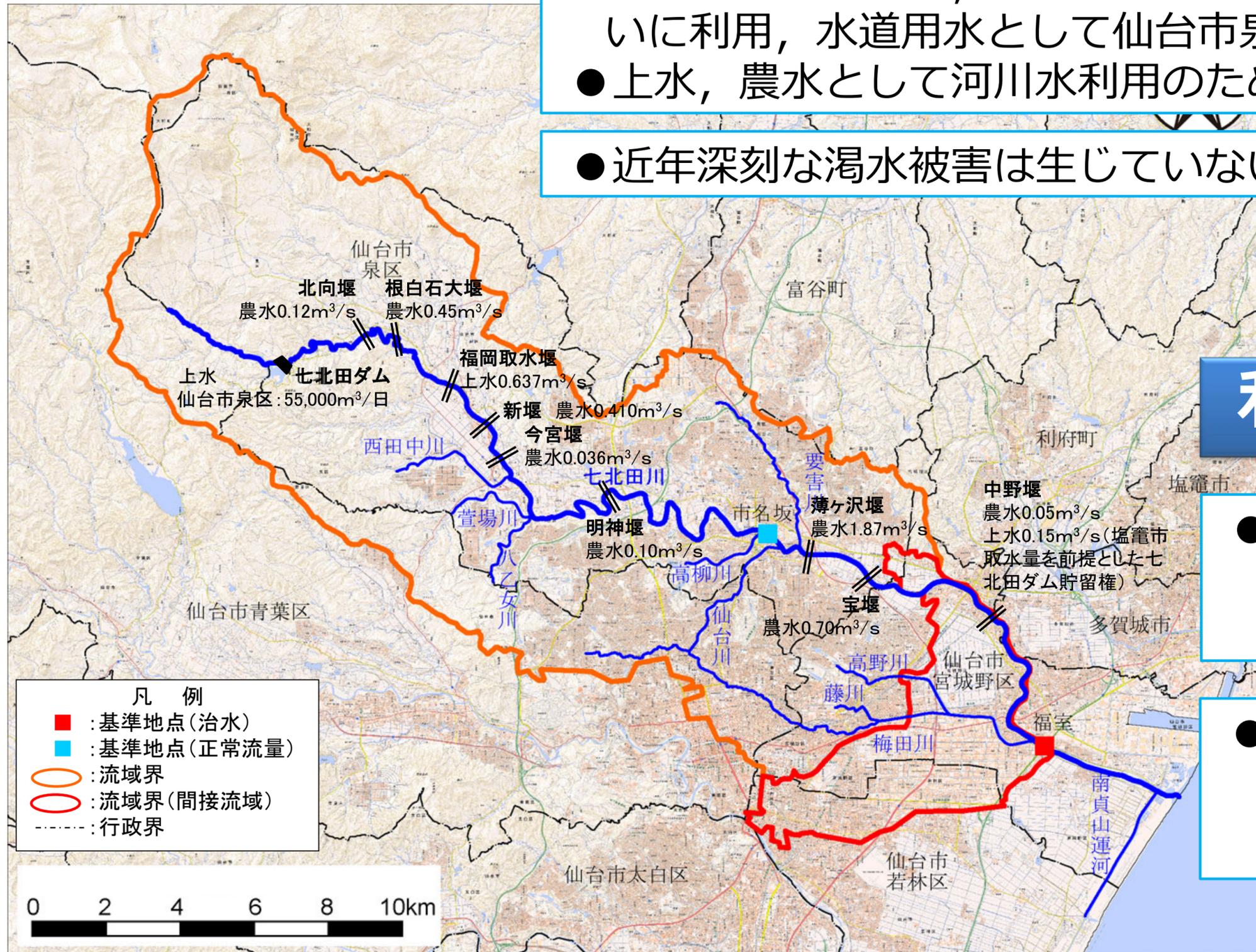
家屋への浸水



車の水没

利水の現状

- 流況については、平均低水流量は約 $4.5\text{m}^3/\text{s}$ 、平均濁水流量は約 $3.1\text{m}^3/\text{s}$ 、1/10規模の濁水流量は約 $1.8\text{m}^3/\text{s}$
- 水利用については、農業用水として約1,600haの農地のかんがいに利用、水道用水として仙台市泉区、塩竈市に供給
- 上水、農水として河川水利用のため堰を設置
- 近年深刻な濁水被害は生じていない



利水の課題

- 低水管理（水位観測，取水管理等），水質管理の継続実施が必要
- 水利用の実態把握に努め，農業用水・上水道用水の安定的な供給が必要

(3) 環境に関する現状と課題

環境の現状 (生物)

●魚道の設置されていない堰が存在

●ギバチ, エドハゼ, ヒモハゼ (魚類), ミサゴ, コクガン (鳥類) 等の貴重な生物種の生息を確認※
※選定基準は, 環境省レッドリスト2019, 宮城県レッドリスト2019に基づく



ドジョウ, ホトケドジョウ(魚類)
スナヤツメ類, キンプナ, ギバチ, ドジョウ, ホトケドジョウ(魚類), オオタカ, ハイタカ, ミサゴ(鳥類)

ドジョウ(魚類)
サクラムス(魚類)

ヨシゴイ, コクガン, チュウサギ, ミサゴ, オオタカ, シロチドリ, ハマシギ(鳥類)
ニホンウナギ, ギバチ(魚類)
ニホンウナギ, ミナミメダカ, エドハゼ, ヒモハゼ(魚類)



●河口周辺の蒲生干潟一帯はシギ・チドリ類の中継地, 天然記念物コクガン飛来の南限地

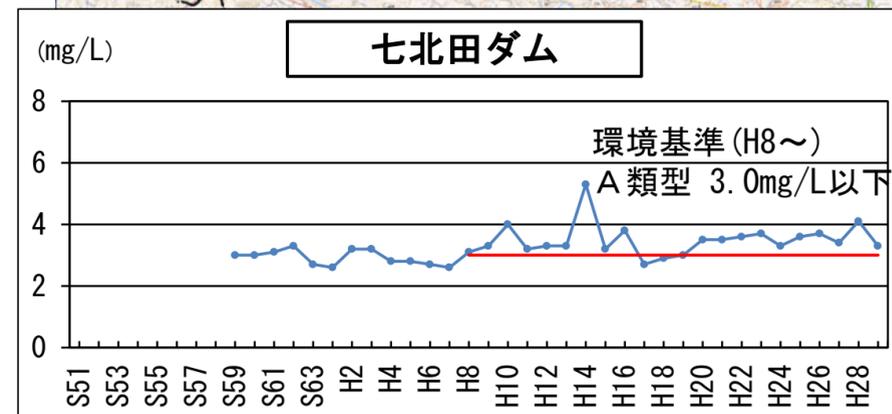
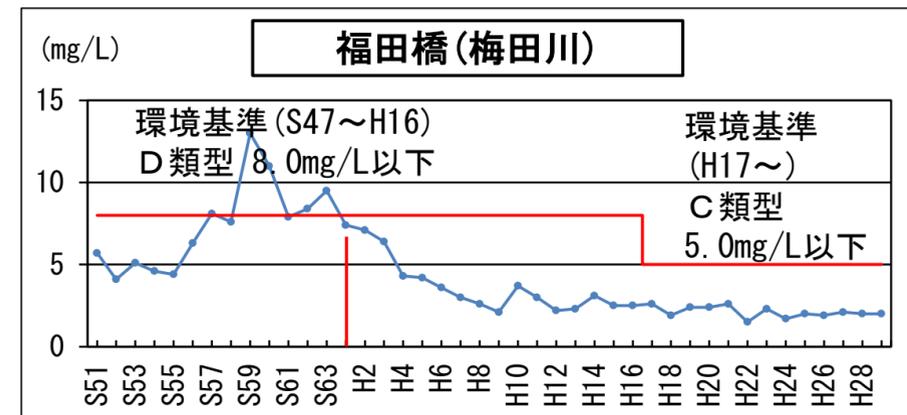
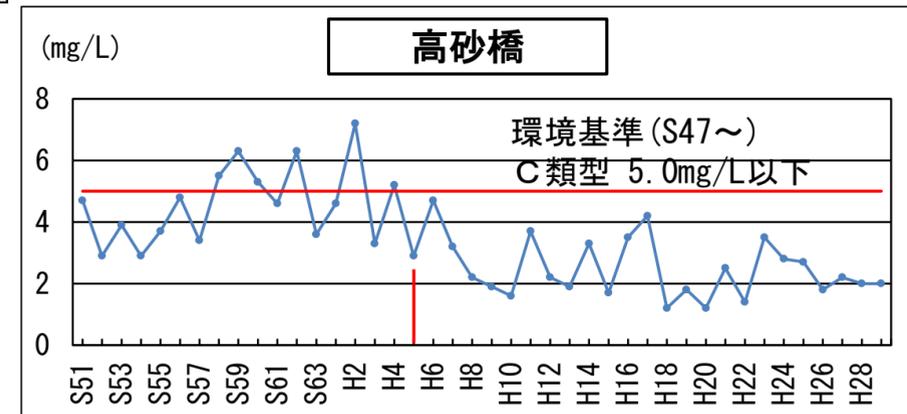
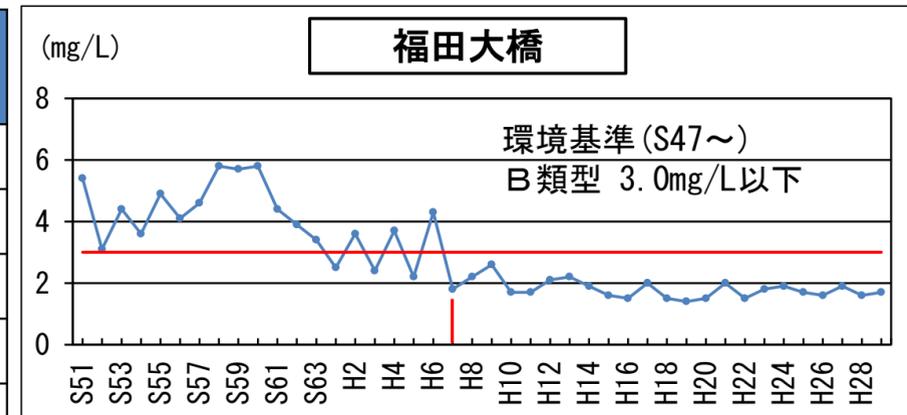
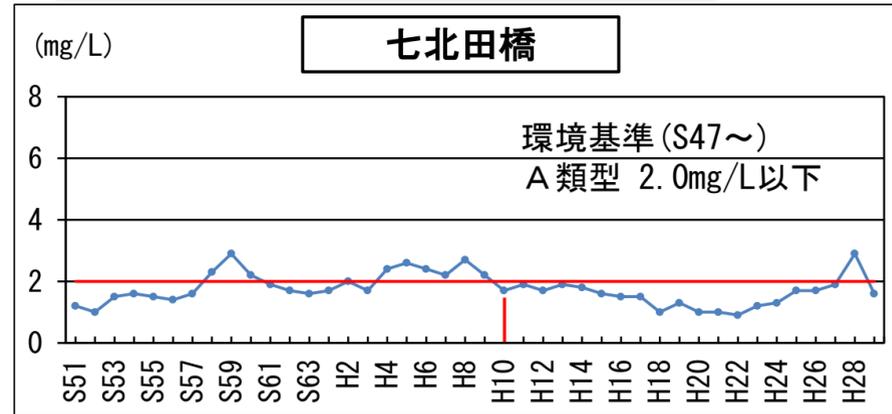
生物の名称は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準じている

(4) 環境に関する現状と課題

環境の現状 (水質)

- 七北田橋は平成10年度以降、環境基準を満足していたが、平成28年度に環境基準を超過、平成29年度には再び環境基準を満足
- 福田大橋は平成7年度以降、高砂橋は平成5年度以降、福田橋は平成元年以降、環境基準を満足
- 七北田ダムでは環境基準を超過しているが、福岡浄水場において水質管理を行い安全であることを確認

評価項目	区間	類型指定	環境基準点
BOD	七北田橋より上流	A類型	七北田橋
	梅田川合流地点から七北田橋	B類型	福田大橋
	梅田川合流地点より下流	C類型	高砂橋
	梅田川	C類型	福田橋
COD	-	A類型	七北田ダム



環境の課題



● 良好な水質の維持

● 魚道の設置されていない堰による連続性の阻害

● 貴重な生物種への配慮が必要

● 震災後の環境変化を把握するための継続的調査が必要

● 河口周辺の蒲生干潟一帯は貴重種である渡り鳥への配慮, 貴重種の生育環境への配慮が必要

維持管理の現状

- 河川巡視・パトロールにより、堤防等の河川管理施設の状態把握・点検、また、土地や河川水の利用状況、許可工作物の状況及び不法行為等の監視
- 河道内の土砂堆積や樹木の状況等、定期モニタリングによる河川状況の把握
- 河川水位・流量観測、雨量観測、水質観測等の水文観測調査
- 堤防変状の早期発見等のための堤防除草
- アドプト制度「みやぎスマイル・リバープログラム」に登録された「スマイルサポーター」の16団体が活動中であり、河川清掃、除草、緑化活動を実施
- 「仙台市河川愛護会」に属する地区毎の10団体による河川愛護活動



維持管理の課題

- 河川管理施設の機能維持のため、河川巡視、点検、監視の継続的实施
- 河道内の土砂堆積や樹木繁茂の進行に対する治水安全度の確認
- 水文資料の継続的な蓄積
- 河川区域内での不法行為に対する監視の継続、河川利用や維持管理状態の確認

危機管理の現状

- 七北田川を「洪水予報河川」，七北田川上流は「水位周知河川」に指定，梅田川を「水位周知河川」に指定，また，両河川を「水防警報河川」に指定
- 洪水時の河川巡視により，堤防等の河川管理施設と許可工作物の状況把握，被害発生時には応急対応
- 洪水時におけるダム、樋門・樋管等の河川管理施設の操作
- 水質事故発生時における被害拡大防止のための早期対応
- 渇水時の関係機関と利水者間での情報共有・連携
- 河川水位・流量観測，雨量観測，水質観測等の情報収集（水文観測調査）及び情報提供（水位，雨量，CCTV）



危機管理の課題

- 洪水時における迅速かつ確実な対応（緊急時，平時とも）
- 洪水時における水文資料の蓄積
- 治水（洪水）・利水（渇水）・環境（水質事故等）等の様々な河川情報の提供

3. 七北田川水系の河川整備の目標

基本的な考え方

- 【治水】 洪水から貴重な生命・財産を守り安全で安心できる地域づくり
津波や高潮被害を最小限にするための目標を定め、計画的な対策を実施
広域的に発生した地盤沈下に対応した河川計画の策定・見直し
- 【利水】 かんがい用水や生活用水等の安定供給
- 【環境】 多様な動植物が生息・育成する潤いとやすらぎのある豊かな水辺の創出

計画対象期間

- 今後概ね30年間を計画対象期間

計画対象河川

- 七北田川水系の知事管理区間の11河川，延長約86Km
(七北田川，南貞山運河，梅田川，高野川，藤川，要害川，仙台川，高柳川，八乙女川，萱場川，西田中川)

治水の目標

- 赤生津大橋より下流は、戦後最大規模の降雨（S23.9）が発生した場合に想定される洪水に対する浸水氾濫防止
- **赤生津大橋より上流は、平成27年9月降雨においても浸水被害を防止**
- 氾濫の被害を軽減できるように危機管理体制の強化，地域防災力の強化
- 高潮・津波からの被害の防止，軽減
河口部では高潮に対応し，堤防の高さをT.P.+7.2mに設定
- 関係機関と連携しながら仙台平野東部低平地の内水対策を促進

利水の目標

- 都市用水及び農業用水の安定供給に配慮しながら，10年に一度の渇水時においても対応可能な水量の確保に向けて，データを蓄積しつつ，関係機関との連携
- 渇水等の発生時における被害を最小限に軽減するため，関係機関との連携を強化し，適切な利水の調整を図る

環境の目標

- 生物等の環境情報の蓄積に努め、河川とその周辺の生態系に配慮し、河道内の樹木等の適正な保全、堰の魚道整備等の流れの連続性の確保による魚類の遡上環境の改善
- 良好な河川景観を維持するとともに、都市部と調和した水辺景観の維持・創出
- 水質環境基準を引き続き満足できるように、下水道等の関連事業や関係機関、地域住民との連携を図りながら水質を保全
- 生態系の保全に配慮しながら人と自然のふれあいの場としての整備

河川管理の目標

- 河川管理施設の機能維持のため、河川巡視、施設点検、河道の縦横断測量、水文観測調査等を継続的・定期的に実施、また、施設の計画的な補修・更新
- アドプト制度の活用や河川愛護団体との連携による、住民参加による維持管理の継続実施
- 自然の河道形状やみお筋を維持しつつ、治水安全度を低下させるような堆積土砂の撤去、樹木の伐採
- 不法行為（不法占用、不法投棄等）の監視・対応、看板設置による意識の啓発

七北田川河川整備計画

- 七北田川水系河川整備基本方針（平成28年6月策定）に基づき、概ね30年間の河川整備計画と具体的な河川整備の内容を定める。
- 七北田川水系河川整備基本方針
 - ・計画規模：1/100
- 七北田川河川整備計画変更案
 - ・上流部の整備目標：平成27年9月降雨においても浸水被害を防止

整備手順案

- 氾濫ブロック毎の人口や資産などにより優先度を評価し、効果的なブロックを選定した上で整備し、より早く河川整備の効果を発現させることが必要
- 検討結果によっては、人家等の資産が少ない下流地区の整備よりも、優先度を重視し上流部や中流部を先行整備

